

『オリコンサル 河川維持管理を高度化 情報一元化でカルテ作成』

オリコンサル 河川維持管理を高度化 情報一元化でカルテ作成

オリエンタルコンサルタンツは、河川を効率的、高度に維持管理できる「河川巡視・点検システム」を開発した。

GIS（地理情報システム）を使ったデータベース管理により過去の類似データから対策方法の判断を支援するほか、施設諸元・巡視・点検情報を一元化することで複合的な情報を盛り込んだ河川カルテが作成できる。直轄河川へ

のシステム採用、維持管理マシメントの提案を進めるとともに、自治体への提案にも力を入れる。

河川の維持管理は、実施頻度が高くマクロな視点が必要な「巡視」と、年に3〜5回、ミクロな視点で実施する「点検」で状態を把握することがベースになる。

これまで、巡視・点検・施設諸元の各情報が紙ベースで個別管理されており、過去データが維持管理に十分に活用できていなかった。また、現場での記録やパソコン入力、日誌作成などで作業が重複していた。

新システムは、これらの効率面の課題を解決するとともに、高度な河川維持管理を実現する。効率化では、携帯端末の活用により、現場で入力

した情報をデータベースや日誌に反映できるようにした。また、情報をデータ化することで検索しやすくなるとともに、工事履歴や異常発生状況など複数情報を集約したカルテの作成が可能となった。

さらに、巡視・点検結果の「見える化」により、過去の異常発生傾向を踏まえた適切な判断がしやすくなる。あわせて、経過観察結果を参照す

れば、施した対策が適切だったかどうかまで確認できる。同システムによる状態把握に堤防植生調査結果を加えれば、除草の効率化・高度化が実現できるなど、機能の拡張が考えられる。

2012年度から直轄河川の1事務所に導入され、活用が始まっている。同社は今後、自治体にも積極的に提案する考えだ。